

日本精工株式会社 2025年3月期 第4四半期 IR 決算説明会 質疑応答要旨

◆FY24 4Q 実績について

【Q1】

FY24 4Q の産業機械、自動車の両事業の営業利益率が上がった背景を知りたい。

【A1】

4Q の営業利益率が上がった背景には、棚卸資産の未実現利益が含まれています。そのため、実力値としては3Qと4Qの平均で見ていただくことが妥当だと考えます。また、FY24 後半にかけて進めてきた体質改善や構造改革の効果が本格的に表れ始めたことも利益率改善の一要因です。

◆事業環境について

【Q2】

産業機械事業において、現在の中国の事業環境はどのようになっているか。

【A2】

FY24 後半の事業環境と状況はさほど変わっていないと見ています。4Qには米国による追加関税を意識した駆け込み需要の増加を懸念しましたが、1Q ではその影響は見られません。FY22 にお客様で増えた在庫の調整がようやく落ち着き、緩やかに回復していますが、中国の売上が4Qに突出して増加したということありません。

【Q3】

追加関税によるコスト増に対し今期の値上げの見込みはどの程度か。また、追加関税の影響を価格に転嫁するタイミングはどうなるのか。4Qに集中するのか。

【A3】

日々状況が変化しているため、価格転嫁にタイムラグが発生する可能性はありますが、これまでもお客様への値上げ交渉ができていますので、今回も交渉は可能だと考えています。四半期ベースで交渉を行うので、1Qの実績をベースとした価格交渉が2Qから4Qの結果に繋がっていきます。

◆中期経営計画 2026 の進捗

【Q4】

産業機械部門の収益性が回復してきたとのコメントがあったが、ボリュームが回復すれば収益性をさらに向上できる体質になっているのか。

【A4】

物量が戻ってくれば営業利益率で 2 桁の収益体質に戻る見込みが立ちました。特に収益面で物量不足が課題となっているのは精機製品です。ブレーキーブンまでは戻ってきましたが、物量はまだ回復途中の状況です。E&E 事業も黒字化は見えていますので、需要の回復をしっかりと掴むことができれば、産業機械事業全体でも 2 桁の営業利益率を狙えると考えています。

【Q5】

電動ブレーキ用 BS の実績はどれくらいだったのか。また今後の見通しにはどれくらい織り込んでいるのか。

【A5】

電動ブレーキ用 BS の実績は、前年同期比で約 30%増の約 150 億円規模の売上高があり、FY26 までに 200 億円以上に伸ばす計画を持っています。さらに、将来的には 300 億から 400 億円まで拡大を狙います。

【Q6】

自動車事業では中国ローカルの客先との取引は着実に増えているのか。

【A6】

価格面では厳しい部分もありますが、eAxle やホイールベアリングなど、受注は着実に増えています。

【Q7】

欧州の構造改革の追加施策は物量面、品種別の採算性、費用面、需要面などどのような側面から決定したのか。

【A7】

需要環境を考慮しつつ、コスト競争力に焦点を当てています。品質やお客様からの現地調達化への要求などを考慮し戦略的に現地生産を継続する品種を選定しました。また、FY25 以降の追加の構造改革費用の多くは自動車関連になります。構造改革の効果としては、工場における固定費や設備費などの削減が含まれます。

◆ステアリング事業の買戻し関連

【Q8】

JIS が黒字化したステアリング事業について NSK が買戻す決定に至った理由は何か。また、将来的に事業を手放すことを考えているか。

【A8】

お互いに設定した目標が達成され、収益の改善が進んだことで双方にとってメリットがありました。基本的にはステアリング事業のパートナー探しの方針は変わっていません。

【Q9】

ステアリング事業は売却時には 90 億円程度の赤字だったと思うが、どのようにして 43 億円まで利益を改善できたのか。

【A9】

FY24 の利益改善の中には有休資産の売却も含まれていますが、主な取り組みは調達費用だけでなく、サプライチェーン全体で最適化を進めたこととなります。生産、販売の面でも徹底的にリーン思考で取り組み、さらにスタンドアローン化したことで売価交渉にも進展がありました。

【Q10】

ステアリング事業が黒字化した背景には円安の効果や遊休資産の売却も貢献していると思うが、そうした影響を除いても黒字体質になっているのか。また、一般論として先行費用や投資を止めることで一時的に収益性を改善させることができると思うが、適切な投資等は実施してできるのか。

【A10】

為替等の影響を除いて、体質として黒字化していますのでご安心いただきたい。今後、追加関税リスクや生産台数の減少リスクもあるかもしれませんが、そういった中でも黒字を継続していきたいと考えます。また、この数年は事業の継続性が重要と考え、投資等を絞り込んだ面もありますが、FY26 から FY27 に向けての受注活動においても案件が取れておりますので、そのための技術や設備、自動化、メンテナンスへの投資は進めてきました。

【Q11】

今回のステアリング事業の買戻しに関するキャッシュアウトはいくらか。売却時のキャッシュインも含めて整理して教えていただきたい。

【A11】

買戻し価格については開示しておりませんため明確にお答えすることができません。今回の買戻しに関しては、売却額よりもプラスで買戻すこととなりますが、ステアリング事業は約 150 億円の利益改善がありますので、その利益の改善分をお互いに分け合うことができているという面からして、キャッシュのインとアウトは妥当だと考えています。

以上